

会 議 録

会議の名称	第5回 杵築市行政改革推進委員会
開催日時	平成31年1月24日（木曜日） 午後1時30分から午後2時50分
開催場所	杵築市役所本庁舎 2階 第2会議室
議 題	別紙資料のとおり
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 ■発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>議事</p> <p>(1) 第3次行政改革大綱実施計画について</p> <p>(2) 第3次行政改革大綱実施計画報告書（案）について</p> <p>(3) その他</p>	
審 議 内 容	
<p>(事務局より欠席者報告)</p> <p>1名の委員が所用により欠席。</p> <p>(委員長あいさつ)</p> <p>(事務局より配付資料の確認)</p> <p>○委員長：それでは、次第3. 議事に入る前に、前回の委員会で事務局に確認依頼をしている項目について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>○総務課係長：前回の委員会の中で保留としていた資料2ページの取組番号13番、上下水道課の水道事業の統合についてである。具体的な活動プランの中に予定貸借対照表の作成が入っていたが、目標設定に無理があり、予定貸借対照表は29年度決算ができないと</p>	

できない。ヒアリング時点では、決算ができてないのでできなかったとして、進捗評価Bとしていた分である。委員さんからの指摘は、活動プランのすべてが完了しているならば、Aではないかとのことであった。上下水道課に確認したところ、予定貸借対照表は完成しているということであり、そもそも、その年度で、できないことを目標としていたので、活動プランの内容から予定貸借対照表の作成を除く形に修正した。よって、進捗度は100%、評価はAとしたい。次に、5ページの取組項目37番、財政課の公営企業の経営健全化についてである。取組の目的としては、公営企業の黒字化である。しかし、活動プランの内容は、ヒアリングとしていたので、予定通り実施したということで評価Aの100%としていた。前回の委員会での指摘で、目的は黒字化の維持であり、目標に未達成なのでBではないかとのことであった。また、今後も黒字化が難しいのであれば、目標設定を黒字化にせずに、赤字の額を減らすことにすればいいのではないかとの指摘もあった。財政課に確認したところ、目標は黒字化であるとのことであり、進捗は、黒字の会計が3分の2なのであり、66%未達成でBとしたい。以上である。

○委員長：事務局から説明があったが、何か意見はあるか。

○委員長：意見がないようなので、議事に入る。（1）第3次行政改革大綱実施計画について、残りは、未収金の対策が27項目となっている。事務局から説明をお願いします。

○総務課係長：42-①の項目からであるが、当初、税務課だけ対象としていたものを全ての未収金に対して進捗度の把握等をすべきだという意見があったので未収金の項目は、27項目である。目標としては、基本的にはどの項目も、前年度を上回る収納率を目指すというような活動プランになっている。進捗については、その収納率を達成したかどうかであるが、担当課によって判断が違うので進捗度には、ばらつきがある。また、ケーブルテレビ使用料項目の進

捗状況の欄には、「不納欠損処理については、総務課と協議の上、次年度以降に対応することとした」とあるが、これについては本日配付した資料をご覧ください。杵築市未収金対策検討ワーキンググループ設置要綱を平成28年1月20日から施行しており、公金の未収金がある課の担当者をもって構成している。今年度、12月19日に担当係長出席のもと第1回目のワーキンググループを開催し、各課の未収金における現状と課題の把握や情報共有を行った。債権によっては、不納欠損処理するために権利放棄が必要であり、権利放棄したい債権のリストを作成、基準等を検討しているところである。破産をしている人や倒産している会社の債権、死亡、遠くに転出して少額であり時効が過ぎているもの等を絞り込んで権利放棄の議案を作成する。来年度以降については、債権管理条例がある自治体とない自治体があるが、杵築市はないので、その設置を考えて行こうというのが来年度以降の議題である。その他についても、情報共有等継続して行うことを考えている。以上が、本年度開始した未収金対策についての取組みである。それを踏まえて29年度を取組状況等実績について項目ごとに見ていく。

（（1）第3次行政改革大綱実施計画について取組項目ごとに事務局より説明）

○委員長：事務局から説明があったが、何か意見はあるか。

○委員：AやBの評価については、最終的に役所の中では、どういう評価になるのか。個人や組織の評価になって何かの評価に使われるのか。

○総務課長：それはない。個人や課の責任だけでとどまっている。人事の場合は、その辺は少しがんばっているなというところはあるが、明確に基準はない。例えば、滞納している人から100万円もらって半分くらい歩合があれば、がんばれると思うが、そういう評価は反映されない。高いモチベーションの職員は、がんばっている

が、担当になったら不運という感じもあり難しい。未収金の対策については、今回ワーキンググループの開催までたどり着いたが、今までしばらくやっていなかった。これで流れを作って1歩でも2歩でもというところにいるというのが現状である。

○委員：ということは、AだろうがBだろうが極端な事を言えばどっちでもいいという理解でいいのか。もしも、AかBかによって人事評価等にすごく影響するならそこは慎重に対応しなければいけないと思ったが、もしそうでなければ、2通りあって100%を超えなければAじゃない、100を超えたらAというふうにするべきだと個人的には思う。実行している人にとっては、98%だったらほとんど達成で、Aでいいじゃないかと私だったら思う。ただ、行革の委員会がそういうような柔軟かい判断をしたらよくないのではないかと思う。行革の委員会としては、100か0かということだと思うが、ランク付けの定義がAは100、Bは、0.1～99.9までになるのでおかしい。課題としては、Bのところを2つに分けてAは100、Bは、例えば70から上、Cは0から70、それ以外にDは、全くやっていないとして、一応評価としてはB以上あればいいことにすればいいと思うが、そこはお任せする。ここで、今回の評価基準で今は、このA B C Dしかない訳なので評価基準どおりに委員会としては、評価すべきである。厳しいかもしれないが、こういうルールになっているので99.9でもBであるというふうにして、目標が高いところもあるかもしれないが、それは来年度以降の課題とする。目標の設定と基準の定義は、課題である。今ある基準では、0か100なので、その判断で担当課はAとしていても委員会としては、Bとしたほうがやりやすい。最初に戻るが、その評価がすぐ個人や組織の評価につながるならば、相当慎重に判断しなければならないが、課長の話のように、そうでないというなら今言ったように100以外はBにしてもいいのではないか。そして来

年度以降に定義を変えてAもBもよいとしてはどうか。

○総務課長：今、委員さんがおっしゃるとおりではないかと思う。来年度以降はAとBの間を少し刻んでB以上なら合格というぐらいがいいかもしれない。

○委員：そこはお任せするが、今時点の評価は、100以外はBとしたほうが良いと私は思う。それと一つ質問だが、先ほどのワーキンググループというのは、いい取組だと思うが、来年度以降も続くと思っていいいのか。

○総務課係長：はい。来年度以降も続けていく。情報共有ももちろんするし、大きい目標としては、債権管理条例というのがあるが、これを作ることを検討していく。

○委員：その時にちょっと疑問なのが、未収金の債権を保有している各課担当者となっているが、どんどん債権回収して減って行って1課しかなくなったら1人でワーキンググループとなってしまう。未収金の債権を保有している課だけでは、いけないのではないかと思う。ゼロになったらやめれば良いが、2、3課になった時にどうすればいいのか困るよりも、いつまた発生するかわからないので基本的には全課ではないのかという気がした。疑問に思ったのでまた検討してもらいたい。

○総務課係長：今、実際は全部持っているので実質全員来たが、今度、市民課は未収金がなくなるので固く考えれば、市民課は来なくていいことになる。

○委員：情報共有という意味では全員ではないかと思う。

○総務課係長：債権が発生した時にその知識は役に立つと思うので検討したい。

○委員長：私もワーキンググループというのは、非常に重要なものになっていくと思う。

○総務課長：未収金の種類が多く、強制執行ができる税やそうでな

いもの、時効もそれぞれ違うので担当者がだいたい3年、長くて5年くらいで交代してしまうと知識の積み重ねが難しい。人数は少なくてもいいが、どこかが債権管理課は無理でも管理室なり管理係で統一的にしていかなないとなかなかノウハウが難しい。今は行革担当が集めてやっているが、役所の中でどこか係くらいは作らないといけないかなという思いはある。

42- ①番 未収金の対策（ケーブルテレビ使用料）

[質疑、意見なし]

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ②番 未収金の対策（一般会計）

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

42- ③番 未収金の対策（国民健康保険税）

[質疑、意見なし]

[進捗度：99% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ④番 未収金の対策（後期高齢者医療保険料）

[質疑、意見なし]

[進捗度：99% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑤番 未収金の対策（介護保険料）

[質疑、意見なし]

[進捗度：99% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑥番 未収金の対策（一般被保険者返納金）

[質疑、意見なし]

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑦番 未収金の対策（汚水処理場使用料）

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

42- ⑧番 未収金の対策（水道料金）

○総務課係長：目標達成しておらず、91%の進捗度であるが担当課の評価はAとなっている。今回の基準としては100%のみをAとするべきとの意見であるが、評価の協議をお願いします。

○委員：評価はAではなくBとする。

[進捗度：91% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑨番 未収金の対策（簡易水道使用料）

○総務課係長：目標達成しておらず、95%の進捗度であるが担当課の評価はAとなっている。今回の基準としては100%のみをAとするべきとの意見であるが、評価の協議をお願いします。

○委員：評価はAではなくBとする。

[進捗度：95% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑩番 未収金の対策（農業集落排水施設使用料）

○総務課係長：目標達成しておらず、98%の進捗度であるが担当課の評価はAとなっている。今回の基準としては100%のみをAとするべきとの意見であるが、評価の協議をお願いします。

○委員：評価はAではなくBとする。

[進捗度：98% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑪番 未収金の対策（公共下水道事業受益者負担金）

[質疑、意見なし]

[進捗度：98% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑫番 未収金の対策（公共下水道使用料）

○総務課係長：目標達成しておらず、98%の進捗度であるが担当課の評価はAとなっている。今回の基準としては100%のみをAとするべきとの意見であるが、評価の協議をお願いします。

○委員：評価はAではなくBとする。

[進捗度：98% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑬番 未収金の対策（特定環境保全公共下水道事業受益者分担金）

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

42- ⑭番 未収金の対策（特定環境保全公共下水道使用料）

○総務課係長：目標達成しておらず、98%の進捗度であるが担当課の評価はAとなっている。今回の基準としては100%のみをAとするべきとの意見であるが、評価の協議をお願いします。

○委員：評価はAではなくBとする。

[進捗度：98% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑮番 未収金の対策（家畜診療手数料）

[質疑、意見なし]

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ⑯番 未収金の対策（畜産基地建設事業参加農家負担金）

[質疑、意見なし]

[進捗度 : 50% 進捗評価 : B. 一部実施]

42- ⑰番 未収金の対策 (基礎牛貸付雌牛返納金)

[質疑、意見なし]

[進捗度 : 50% 進捗評価 : B. 一部実施]

42- ⑱番 未収金の対策 (市営住宅使用料)

○総務課係長 : 目標達成しておらず、25%の進捗度であるが担当課の評価はAとなっている。今回の基準としては100%のみをAとするべきとの意見であるが、評価の協議をお願いします。

○委員 : 評価はAではなくBとする。

[進捗度 : 25% 進捗評価 : B. 一部実施]

42- ⑲番 未収金の対策 (住宅新築資金等貸付金元利収入)

○総務課係長 : 目標達成しておらず、25%の進捗度であるが担当課の評価はAとなっている。今回の基準としては100%のみをAとするべきとの意見であるが、評価の協議をお願いします。

○委員 : 評価はAではなくBとする。

[進捗度 : 25% 進捗評価 : B. 一部実施]

42- ⑳番 未収金の対策 (災害援護資金貸付金)

[質疑、意見なし]

[進捗度 : 30% 進捗評価 : B. 一部実施]

42- ㉑番 未収金の対策 (高齢者住宅整備資金貸付事業)

[質疑、意見なし]

[進捗度 : -% 進捗評価 : C. 未実施]

42- ㉒番 未収金の対策（生活保護費返還金）

[質疑、意見なし]

[進捗度：94% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ㉓番 未収金の対策（児童保護措置費負担金 [保育料]）

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

42- ㉔番 未収金の対策（JR中山香駅駐車場使用料）

[質疑、意見なし]

[進捗度：5% 進捗評価：B. 一部実施]

42- ㉕-1番 未収金の対策（給食費・杵築調理場）

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

42- ㉕-2番 未収金の対策（給食費・山香調理場）

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

42- ㉖番 未収金の対策（診療費）

[質疑、意見なし]

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

○委員長：他に意見はないか。なければ、次の議事に入る。（２）
第３次行政改革大綱実施計画報告書（案）について、事務局から説明をお願いします。

（（２）第３次行政改革大綱実施計画報告書（案）について事務局

より読み上げて提案)

○委員長：ただいま事務局より提案のあった報告書（案）についてご指摘や意見はないか。

○委員：2つある。1つは4ページ上のほうの「目標設定についてであり、達成不可能な内容とならないように…」となっているが、こう書くと達成可能な目標にすればいいという感じがする。達成不可能な内容の前に、気持ちとしては、例えば、高い目標への挑戦をしてほしいが、と入れるなどしないと、つつい甘い目標設定になるような気がする。委員会としての報告なので、それくらい書いてもいいのではないかと思う。要は、チャレンジ目標である。目標としては高みを望んでいく、ただし、その時にどう考えても不可能な内容にはならないようにするというのは大事である。もう1つは、このAやBというのは、人事評価とかそういうことは言わないが、やった人達は評価結果を、本当に各課で組織的に受け止められるようになっているのか。何が言いたいかというAやBと書いておしまいだったらよくないと思う。Aにならずに残念だった、よし、来年はがんばろうとならないといけないから、やっている担当者全員に伝わっていく、やっている組織にちゃんと伝わって、組織長が今回、私たちの評価はこうだった、課の評価はこれで外部評価はこうだった、もっとがんばろうねというふうになっているのか。なっとなければそうなるようにしてほしい。書き方はわからないが、そういう気持ちである。私の経験で、自己満足でAでよかったと思うこともあったが、企業で違うのは、AかBというのは給料、ボーナスに反映される。なので、自分はAだということをもものすごく強くPRする。上のほうからすれば、全体の枠が決まっているので、お前はCなんだと言わなきゃいけない。給料、ボーナスにかかってくるので、AかBかは重要で、そう言われれば、来年は絶対に明確なAにしてやると強い意気込みを持てる。市役所では、そういう影響は

ないと先ほど聞いたので、それはそれでいいと思うが、せつかく A B C D を付けたのでそれが個人や組織の、やる気に反映されるような仕組みにしてほしい。ただ、この A B C D で全体の 7 割いってるからよかったねで終わっていたらいけないと思う。特に、杵築市は財政的には厳しいし、職員が私にとっては杵築市のキーマンだと思っている。杵築市の職員は、私たち市民にとっては、宝である。がんばってほしい。

○総務課係長：職員としては、私はヒアリングをする立場のほうにいるが、行革の項目に入った事業については、項目に入っているからしっかりやらないといけないという意識は絶対ある。委員さんに出すのに C というのはあり得ないから、何か実績を残さないといけない、かつ、数値はなるべく高めになるべく A というのは意識としてある。私に言わせれば、この項目にあるという時点で尻に火がついている状況である。ないと外部の委員さんたちにも見せず、誰も評価しないからやらなくてもわからない。ただ、こういうふうに表に出る以上はやらないといけないという、項目にあるだけで効果があるとも言える。ただ、その先は、委員さんが言うような評価の反映については、課長が先ほど言ったとおりになるのかなというところである。

○委員：私も人事評価まで反映してくれというつもりはない。私が思ったのは、この報告書の 4 ページ真ん中のほうに「…一度検討する必要がある。」とあるが、そのあとに「合わせて、評価結果を効率的な、あるいは効率的に運営させるために組織や個人に結果を広く知らしめて、それを来年度への反省や、やる気につなげてほしい。」というようなことを入れてはどうか。今の話だともうみんなその意識はあるということか。

○総務課係長：そうだと思う。今回は 4 年計画の 1 年目の評価をした訳なので、今年が B で 80% だったら次の年はそれ以上を目指そ

うとするのは基本である。

○委員：ただ単に、評価しておしまいだったらいけないと思って。

○委員長：今の委員の意見は、要は、進捗状況の評価内容について、各担当部署が自覚を持ってしっかり認識するよう要請したいということでしょうか。

○委員：そのとおりである。

○委員長：ではその文言を入れる。

○総務課係長：目標のところは、「目標は高く設定するのが望ましいが、」を入れる。

○委員長：他に意見はあるか。なければ、事務局から何かあれば。

（第3次行政改革大綱実施計画（平成29年度実績）の冊子について、事務局より説明）

○委員長：事務局から説明があったが、何か意見はあるか。

○委員：内容とは関係ないが、カラーコピーはもったいない感じがする。白黒とは結構値段が違うのではないか。

○総務課係長：金額は、わからないが、コピー機ではなくて、カラーの輪転機を使っているのもともと安いとは思う。

○委員：じゃあ、あまりこだわらなくてもいいか。

○総務課係長：少しは高いと思うが、カラーコピーのイメージとはちょっと違う。

○委員：わかった。

○委員長：他にはよろしいか。それでは、報告書の審議はこれで終了となる。これで、本年度予定していた事業評価と第3次行政改革大綱実施計画報告書の進捗管理が終了した。皆様には大変お世話になった。私、委員長を初めてやらせていただき、過去に2年間杵築に住んでいたとはいえ、全く杵築の事は知らないのが実際のところで、皆様のご指摘に対してそうだったのかと内心思いながら司会をやった次第である。これに懲りず、しっかり今後も勉強させてい

ただくので、今後ともよろしく願います。このあと15時30分から市長に結果を報告するが、委員の皆さんで都合がよければ市長室に全員でいきたいと考えている。

(1人は都合が悪いとの声)

○委員長：では3人で。少し待つことになるがよろしく願います。その他何かないか。委員からはないようなので、事務局に進行をお願いします。

○総務課係長：それでは、今から資料の修正をして準備ができ次第、目標15時30分であるが、市長室にご案内する。先ほど委員長からもあったが、今回が本年度最後の委員会となった。今までありがとうございました。来年度は、第1回目を6月頃開催予定である。今年は、委員の選考等があったため、遅くなったが来年度は6月に開催し、1回目は予算説明、それ以降は今年と同じく事業評価と、この行革の大綱の評価を順番にやっていく予定である。1回目を早めに開催し、2回目はヒアリング等が終わってからなので、少し間があいて開催予定である。もちろん時期になったら連絡をするのでそのときはよろしく願います。

○総務課長：以上で第5回の杵築市行政改革推進委員会を閉会する。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

(休憩中の意見)

○委員：平成29年度決算の財政指標について、実質単年度収支は5億1,600万円の赤字となっているが、このことは、市報か何かで公表されているのか。赤字額を載せて杵築市の財政状況が厳しいことを市民も知っていたほうがいいと思う。

○総務課係長：実質単年度収支という数字で公表しているかはわからないが、財政状況は毎年市報で公表している。担当課に伝える。